

熊本バレエ劇場（地域文化活動部門）



概要

創立	昭和五十年一月
代表	伴 征子
構成人員	三九〇名
所在地	熊本市妙体寺町六一五 熊本バレエ研究所
電話番号	〇九六（三四三）〇〇九一
主な活動地	県内

近年「くるみ割り人形」は、バレエの「第九」といわれるほど、年末行事として全国各地で上演されるようになって来た。

熊本バレエ劇場では、昭和五十年の創立以来、「くるみ割り人形」を代表演目として、これまで二七ステージの上演回数を記録している。しかも主役やソリストを東京から迎える例が多い中、熊本バレエ研究所ピックアップメンバーによる十八年の積み重ねは、踊り手、バレエ愛好家を育てたばかりでなく、照明などの舞台関係者や指揮者、舞台監督へも波及効果を上げてきた。照明の色川伸氏は、日本照明家協会優秀賞を一九八八年受賞。指揮の福田隆氏は、一九九二年の東京シテイバレエ団公演を指揮し、中央においても高い評価を受けている。また、衣裳や装置にもオリジナリティが見られ、年々その完成度を高めている。

一九九二年の公演では、かねて親交のある上海市舞蹈学校、上海音楽学院の一行十二人を迎え、芸術文化交流のステージを展開し、熊本の青少年の日中友好交流促進の一翼を担うなど、本県の文化の振興に果たす役割はますます大きくなるものと期待されている。

これまでの活動歴

熊本バレエ研究所創立二十五周年を記念して、熊本バレエ劇場の名を冠した公演を企画

- ・一九七五年 第一回「くるみ割り人形」公演（指揮 福田一雄、演奏 熊本交響楽団）
- ・一九七六年 八代・天草にて再演。
- ・一九七八年 水俣市、県教委共催 創作バレエ「絵本昔むかし 舌切り雀」水俣公演（音楽 木村雅信、指揮 堤俊作、演奏 熊本ユースオーケストラ）。同熊本・本渡公演
- ・一九八〇年 プロコフィエフ「シンデレラ」公演（指揮 福田一雄、演奏 熊本ユースオーケストラ）
- ・一九八三年 「くるみ割り人形 お菓子の宮殿の場」ほか、を牛深市主催公演として上演

・熊本バレエ劇場の代表演目である「くるみ割り人形」を一九八二年から毎年公演（一九八四年から熊本ユースオーケストラの演奏、一九八五年から指揮 福田 隆）